

# 平成 18 年度財団法人浜松市フラワー・フルーツパーク公社事業報告

## 1 概 況

(1) フラワーパークの年間有料入園者数は 336,360 人で、対前年比 102.1%、7,003 人の増加となりました。計画目標は 35 万人としており、達成率は 96.1%となりました。

フラワーパークの 4 月から 6 月にかけての実績は、対前年比 87.1%にとどまりました。これは近隣の豊橋動植物公園「のんほいパーク」において、愛知万博で好評だった「冷凍マンモス」が 4 月 8 日から 6 月 18 日まで展示され、前年比 1.5 倍以上入園者を増加させるという、大きなイベントが行われたことや、春先の長雨、天候不順等も影響し、この 3 ヶ月間の有料入園者数は、対前年比 23,213 人の減少となり、苦しいスタートとなりました。

しかし夏以降、子供向けイベントの充実や花博で話題となった「百種接分菊」の展示、クリスマスイルミネーションなどの夜間開園に引き続き力を入れるなどして、園の更なる魅力創出に努めた結果、前期の減少分を後期で取り返し、入園者数の減少に歯止めをかけました。

フルーツパークの年間有料入園者数は 204,168 人で、対前年比 109.8%、18,276 人の増加となりました。計画目標は 21 万人としており、達成率は 97.2%となりました。

フルーツパークもフラワーパークと同様、4 月から 6 月にかけての実績は対前年比 89.2%となりました。しかし夏以降、モモ、ナシ、ブドウなど完熟果物の収穫体験が一層定着化したほか、イチゴ狩り、雪遊び広場、大型イベント「アーモンドフェスタ」や、地元都田地域と連携して本年度より開始したつり堀事業等、季節イベントが効果的に機能し、有料入園者数の増加につながりました。

事業量 (有料入園者数)

(単位：人)

区 分	計	フラワーパーク	フルーツパーク
当 初	590,000	360,000	230,000
3 月補正後	560,000	350,000	210,000
決 算	540,528	336,360	204,168
無料入園者数	121,044	69,394	51,650
有料無料合計	661,572	405,754	255,818

合計の有料入園者数は計画目標とした事業量を下回る結果となりました。

平成 18 年度のフラワーパークにおける有料入園者数は 33 万人台を回復し、フルーツパークでは、「都田川川遊び」「イチゴ狩り」「雪遊び」などのイベントが順調に推移し、両園とも対前年比は増加しましたが、計画目標には今一步届きませんでした。

(2) 市民・館山寺温泉宿泊客利便のため、平成 18 年度も 1 月 1 日から開園いたしました。

(3) 職員数は、平成 17 年度の 59 人に対して 7 人を減員し、52 人となりましたが、不補充対策として現有人員の業務分担の見直し及び繁忙期での臨時雇用により対応し、来園者のサービス低下にならないよう努めました。

(4) インターネット等メディアを活用した園内情報発信を積極的に推進しました。

(ホームページアクセス数 フラワーパーク 322,522 件、フルーツパーク 288,699 件)

(5) フルーツパークでは、浜松市と連携して「浜松市ユニバーサル園芸研究会」における障害者就農支援の受入協力を積極的に行うなど、障害者に優しい施設づくりに努めました。

## 2 課題への対応状況と今後の方針

### (1) 対処すべき課題

平成18年4月2日(日)と8日(土)は天候が悪く、有料入園者数は2日間で計6,819人と予想を大きく下回りました。この時期の休日の悪天候による1日の入園者数の減少は、閑散期の1ヶ月分に相当するため、後でこの減員分を取り戻すことは非常に困難です。

また、フラワーパークから7kmの距離に「浜名湖ガーデンパーク」が立地していることにより、近隣の小中学生の遠足や、高齢者団体等のフラワーパーク、フルーツパークへの入園動向への影響が懸念されています。さらに、毎年4月に行われる「浜名湖フラワーフェスタ」等の大型イベントは、当公社の入園者数の増減に大きく影響するため、黒字化を困難にしている要因の一つとなっています。これらの課題は無料施設と有料施設の競合という本質的な問題を内在していることから、有料施設が無料施設を凌駕するだけの魅力を打ち出せるかどうかにかかっております。

### (2) 今後の方針

近隣には類似施設が増加してきており、入園者数を増加させることが困難な中、フラワーパークとフルーツパークでは、他の園にはないイベントを企画し、運営していきます。

財務面については、「事業活動によるキャッシュフロー」を黒字化できれば、中長期の運営が可能であると考えており、経常的に黒字化できるよう努めていきます。

今後は、市民対象の誘客から、東海地区を重点とした宣伝活動を行い、広く誘客宣伝することで団体客の取り込みを強化するとともに、料金面についても柔軟に対応できるよう検討します。

また、行財政改革推進審議会の提言及び市行政経営計画に基づき、フラワーパークと動物園の一体化のあり方や今後のフルーツパークのあり方について、将来にわたり健全経営が図られるように最小コストで運営できる仕組みを検討します。